

アカゲラ通信

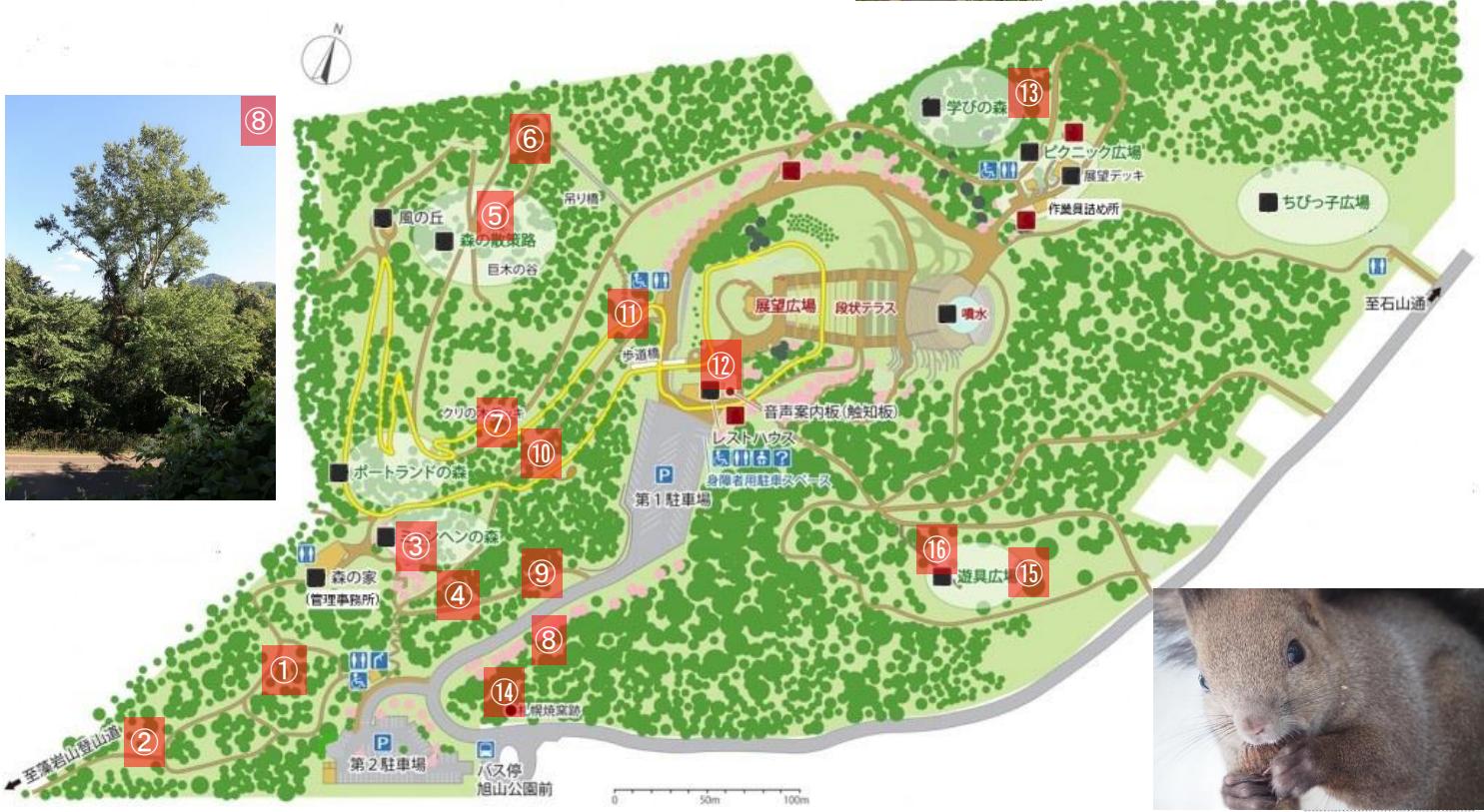


旭山記念公園名木めぐり

旭山記念公園にある大木、目立つ木、特徴のある木を紹介します。場所はマップの番号をご参照ください。

- ①藻岩山につながるミズナラ:かつてこの辺りが原生林であったことを思い起こさせてくれる大木です
- ②登山者を迎えるキタコブシ:背は高くないものの枝ぶりがよく、4月下旬から5月にたくさん花が咲きます
- ③ヤドリギいっぱいのハルニレ:アカミヤドリギの実がなる冬にはヒレンジャクやヒヨドリが実を食べに来ます
- ④鳥がよくとまるシラカンバ:斜面に高く突き出てヒレンジャク、ウソ、ツグミ、アオバトなど鳥がよくとまります
- ⑤間近に見られるオニグルミ:石垣の斜面下に立っていて花や実を間近に見ることができます
- ⑥鳥やエゾリス憩いの場ヨーロッパトウヒ:キクイタダキが訪れエゾリスもよくここでクルミをかじっています
- ⑦旭山でいちばん太い木クリ:太さ1m以上。「栗の木デッキ」はこの木の横に作されました
- ⑧旭山でいちばん高い木ドロノキ:高さ25m以上、道路より下数mの斜面に立っています
- ⑨旭山でいちばんきれいに色づくヤマモミジ:樹形も整っていて秋には美しい紅葉を見ることができます
- ⑩牧場の名残りのポプラ:牧場だった100年以上前に植えられた木で鳥たちがよく休んでいます
- ⑪頑張ってるハリギリ:再整備工事で根が傷み枯れかけましたが毎年葉をつけなんとか生き残っています
- ⑫展望台の一本桜(エゾヤマザクラ):花が咲く頃には春の喜びを感じます。秋の紅葉もきれいです
- ⑬ミニブナ林:1970年公園開基の際道内の木を集めた「学びの森」に植えられた12本のブナがあります
- ⑭隠れ大木カツラ:「札幌焼窯跡」裏の沢急斜面にありなかなか近づけないですが実は結構な大木です
- ⑮ゆったりと構えるオオバボダイジュ:ハルニレとともに大きく枝を張って「遊具広場」を見守る大木です
- ⑯黄葉が映えるイタヤカエデ:目に留まる場所にあるこの木は秋の黄葉が輝くようにきれいです

春夏秋冬、季節ごとに訪れてそれぞれの木の魅力を楽しんでみてはいかがですか。



旭山野鳥メモ⑩キバシリ

キバシリ Eurasian Treecreeper *Certhia familiaris* スズメ目キバシリ科

北海道では1年中見られるが旭山では9月から4月上旬まで。公園西側エリアから都市環境林でよく観察されるが東側で少ない。夏に見られてもいい気もするが旭山ではまだ夏の記録はない。

木の幹や太い枝を下かららせん状に登りながら餌を探し、上まで達すると飛んで他の木の方にとまってまた登り始める。その様子を日本で「木を走る」、英語で「木を這う」、親しみやすい名前だ。

ただ、木の幹にいると目に留まりにくい。幹に紛れて動きを捉えにくいものもあるが、何より背中側の羽が見事なまでに樹皮のような模様になっていて見つけにくい。保護色といつていいくらい。

ミソサザイのような朗らかな囁りがきれい。雪深い2月にその囁りを聞くと驚かされることも。地鳴きは「シリリー」と小さな鈴の音のような独特な声で分かりやすい(だから余計に姿を見つけにくくてもどかしい…)

嘴は「キバ」のように長く尖っている。尾羽は太く力強い。「日本の小さい鳥」銅メダル級のほっそりした鳥。地味なようで特徴があり過ぎる。出会うと喜ぶ人が多く意外と人気者。そんな野鳥ではないだろうか。



2022年2月の野鳥トピックス

- ・シマエナガ: 2月に入りペアでの行動が増え8羽以上の群れで見る機会は少なくなりました。2月はイタヤカエデの樹液を飲みに来ます
- ・キクイタダキ: 観察機会は少ないですが例年これから増えます
- ・ミソサザイ: 園内の沢周辺でときどき見られています
- ・マヒワ: 今年は数羽が日に1度見られるくらいでごく少ないです
- ・ウソ: 1月下旬9羽同時目視など観察情報が増えました
- ・キバシリ: 比較的観察機会が多く囁りが聞かれることもあります
- ・ツグミ: 数は少ないものの1月後半から観察機会が増えました
- ・カケス: 1月下旬から園内で毎日一度は観察されるようになりました
- ・ヤマゲラ: 近くで観察・撮影できたという情報が増えてきました
- ・クマゲラ: 園内の近くでの観察情報はまだ少ないですがこの先増えるものと予想されます



ゴジュウカラ(亜種シロハラゴジュウカラ)↑

ハリギリが倒れた

昨冬(2020-21年)、シマエナガやウソ、ルリビタキやカラ類、アカゲラなど多くの野鳥がその実を食べに来る木として「大ブレイク」した森の家南側のハリギリ大木。実がついた赤い柄と鳥たちの写真が映えるとして大人気スポットとなりました。

しかし、先月の大雪による着雪でそのハリギリが倒れてしましました。そうではなくとも今年は実がならず鳥が寄り付かないと寂しがる人が多かったのですが、さらなる大打撃。



現在は雪の下で詳しくは分からぬですが、どうやら折れたのではなく、根元から掘り起こされて倒れたようです。

ただ、その場合、すぐには枯れず、「最後の力」で今年の初秋に花を咲かせて秋にたくさん実をつけることも考えられます。

春になり雪が解けて、園路にかかる場所の枝は切り落とさざるを得ないですが、基本的には倒れたまま様子を見ることになるでしょう。

それにしても、あれだけ太い木が倒れるなんて、あらためて雪の怖さ、自然の猛威を感じました。



「アカゲラ通信」 第98号 2022(令和4)年2月9日発行

(公財)札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

<https://www.sapporo-park.or.jp/asahiyama/> 〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

電話 011-200-0311 (金・土・日・祝日 10時~16時) FAX 011-200-0351